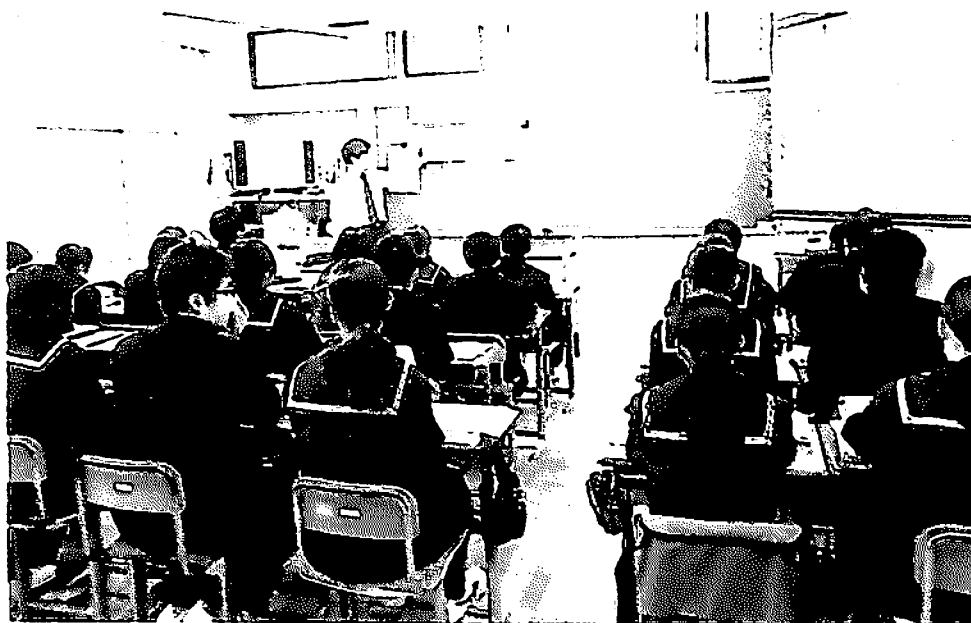


第69次印旛地区教育研究集会
(社会科教育・中学校)

確かな学力と思考力・表現力を高める社会科学習のあり方
～「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの活用を通して～



印西市立船穂中学校
吉田 知宏

1 研究主題

確かな学力と思考力・表現力を高める社会科学学習のあり方
～「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの活用を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領より

新学習指導要領総則では、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。」と示されている。

学習活動を進めるに当たって、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められているが、これまでも様々な先生方により、問題解決型の授業展開・実践がなされてきた。

そこで、本研究では、生徒が自ら課題を見出し、追求できる一連の流れを習慣化することで、誰もが問題解決的な学習過程を自然と進めることができるよう本主題を設定した。

(2) 印教研研究主題より

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学学習
～自ら課題をみだし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成をめざして～

本研究は、上記の印教研社会科学研究部研究主題を受けて設定している。社会科学学習における「生きる力」とは、単に知識・技能の習得だけにとどまらず、変化の激しい社会の中でたくましく生き抜くための力の育成が重要視されている。この生きる力を培う基礎として、疑問を持ったことに対し、解決の見通しを持ちつつ、社会的な事実をもとに調べ、考えを形成し、学び合いの中でさらに考えを深め、まとめ、学んだことを身に付ける力が求められている。ここで挙げた一連の学習の流れを意識した取り組みにより、自ら学ぶ姿勢や自信を付けることで、自分の考えをさらに深め、表現することのできる生徒を育んでいきたい。

(3) 生徒の実態から

本校1年生の意識調査を通して、「社会科の学習が好き」と答えた生徒は8割以上を占める。その大半の生徒は「社会科の学習がわかる」という回答をしており、社会科学学習に対する意識が高く、前向きな気持ちで学習に取り組もうとする様子が見てとれる。その一方で、小テストや定期テストなどの結果を見ると、一つ一つの社会的事象をいわゆる一問一答形式で覚えようとして

いる生徒が多い。そのため、知識・理解については一定の定着が見られるが、事象同士の関連性を結びつけないまま捉えてしまうという現状がある。このような現状を改善するために本校では、「社会的事象を関連づけて大きな社会的事象を獲得する」取り組みと、「大きな社会的事象の概念を構成する、一つ一つの事象の意味づけを行う」という取り組みを、千葉県教育委員会から出されている「思考し、表現する力」を高める「実践モデルプログラム」に基づいて実践していく。

3 研究の目標

実践モデルプログラムに基づいた授業実践や思考を揺さぶる発問や資料提示を行うことで、社会的事象への関心を高め、確かな学力や思考力・表現力が高まることを、実践を通して明らかにする。

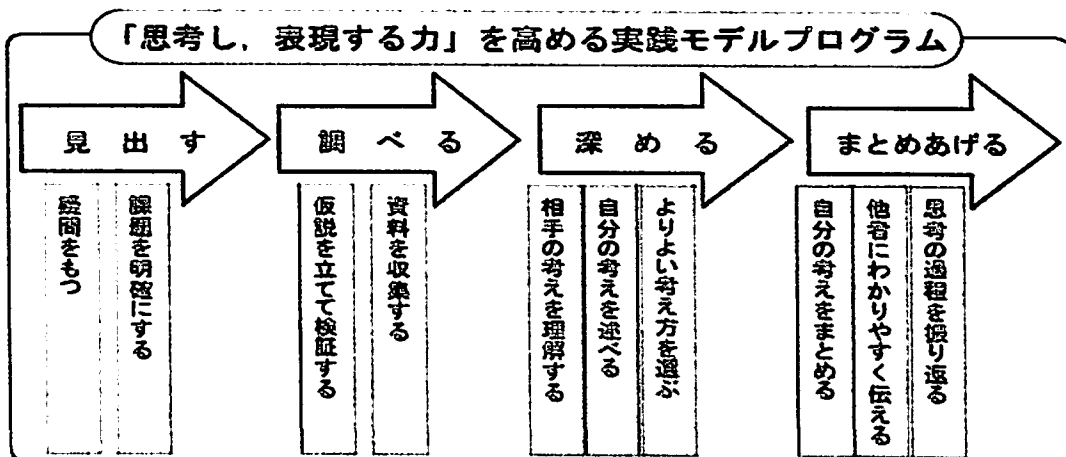
4 研究の手立て

<仮説>

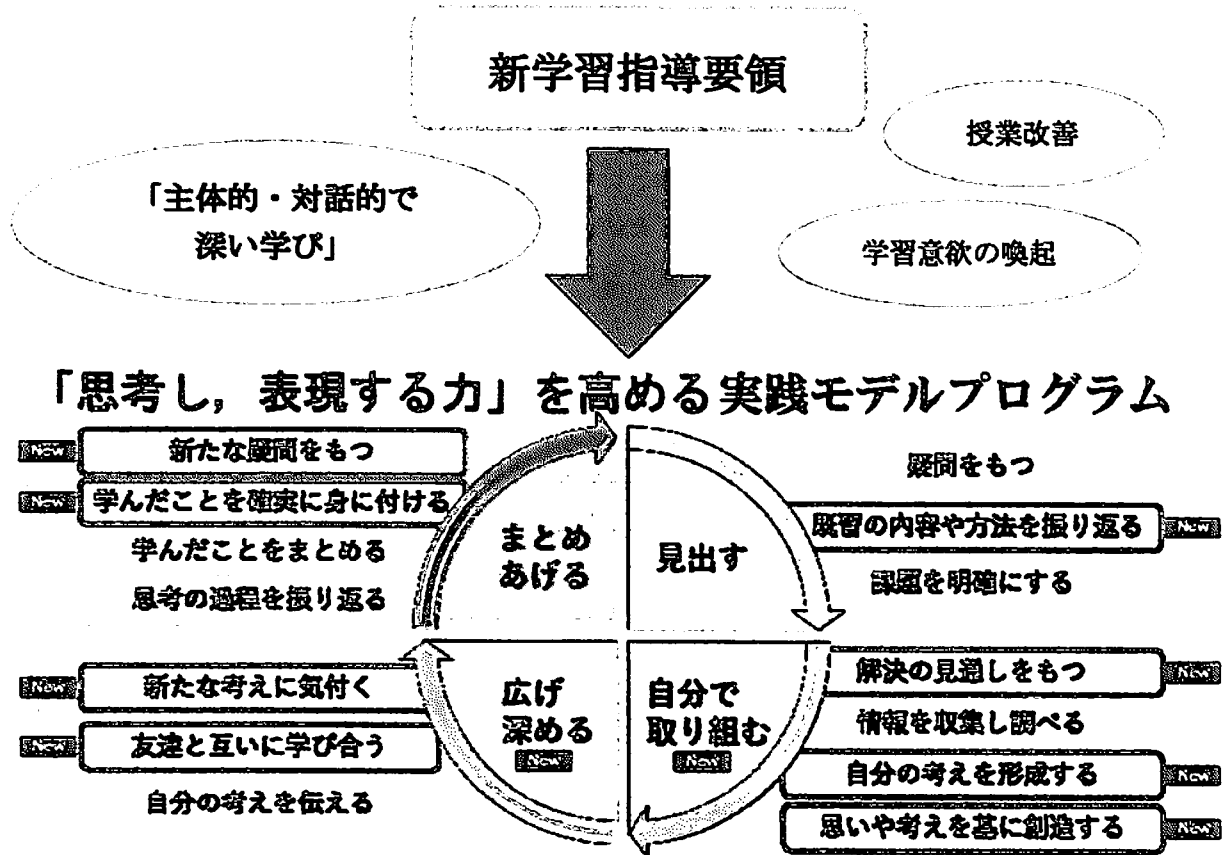
実践モデルプログラムを習慣化することで、学習内容の定着や思考力・表現力を高めることができるだろう。

この実践モデルプログラムは千葉県教育委員会が、新学習指導要領に基づいて、児童生徒に育成すべき資質・能力を育むために「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善が図られるよう、構築されたものである。問題解決的の学習をさらに意識的に行う手立てとして有効であると考えられる。ただ、毎時間行うことはかえって形式的な授業になってしまう可能性がある。1単位時間で行う場合もあれば、複数時間で行う場合もあり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した上で行う必要がある。単元計画や授業計画に意図的・計画的に「見出す」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめ上げる」を位置づけすることが大切であると考えられる。

<これまでのモデルプログラム>



<新しいモデルプログラム>



「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを行うために、次に挙げる内容で実践していく。その中で、「自分の意見（考え）を持てる生徒」「学び合いの中で新たな考えに気づく生徒」「学んだことをしっかり身に付け、新たな疑問を持てる生徒」を増やしていきたい。

<見出す>

①導入の工夫を行い、課題についての興味・関心を高める。

- ・既習内容の確認を行う。(短時間で)
- ・しっかり考えを深めて欲しい内容につながる資料の精選を行い、提示する。
- ・課題を明確にするための発問を提示する。
- ・本時の授業の流れや見通しを持たせる。

<自分で取り組む>

②仮説（予想）をたてる。

- ・学習問題に対するゴールまでの過程を大切に取り組みさせるために、仮説を立てさせイメージを持たせて思考力を掘り起こす。

③調べ学習の充実を図る。

- ・教科書のみならず、資料集、地図帳、インターネット、図書資料などから、自分の考えをしっかり持つため調べる活動の充実を図る。
- ・教材研究を進めていく中で、指導者側が考える「ねらい」や、資料の編纂時期の差などが起こりやすい内容については、資料の精選を行い、より調べた内容の精度を高める。
- ・目的にあった思考ツールを授業内容ごとに選択する。
- ・調べた情報を可視化し、思考を方向付ける。その中で、考えを進める流れやイメージを持たせる。(相手に伝わるような工夫)

<広げ深める>

④思考ツールによって可視化された社会的事象を関連づけ、意味づけすることによって導き出された自分の考えをグループ内に表出し、その内容を検討する。

- ・思考ツールによって導き出された自分の意見を提示し、グループ内で吟味をする。
- ・友達からの意見を参考にして、自分の意見の再構築を行う。(付け足す・自分の言葉でまとめるなど)
- ・グループの意見を統一する場合、個人の意見を尊重し、吟味しながら課題に対する答えを構築していく。

⑤話し合いの目的や観点、進め方など明確にする。(社会的用語やキーワードの活用)

- ・意見と根拠に分けて筋道立てて説明できるようにさせる。
- ・課題解決までの考え方と根拠を分けて、別の生徒に発表させる。
- ・友達の発表の途中でも、分からないことは質問してよいことにする。
- ・未解決の考えや表現力に乏しい発表であっても、友達の意見から分かったこと、同じこと、つけたし、さらに詳しくする説明・質問などをさせていく。

⑥意見交換を活発にするために学習形態を工夫する。

- ・一斉学習 グループ学習 ペア学習等
→単元や指導内容、生徒の実態に応じて効果が期待される学習形態を意図的に設定する。
- ・ペアやグループの話し合いでは、一つの考えにまとめさせるのではなく、友達の考えから分かったことやよいところ、それぞれの考えの違いや共通点など、視点を明確にして話し合わせる。

<まとめあげる>

⑦本時の学習で分かったことをまとめる。

- ・学習内容を振り返る。
- ・この時間や単元で学んだことを自分の言葉でまとめる。
- ・簡単な練習問題などに取り組む。(ワークの活用など)
- ・次回の学習への展望を持つ。(新たな疑問を持つ。)



5 研究実践

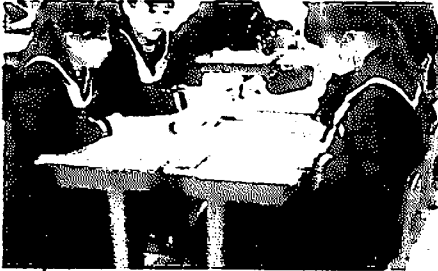
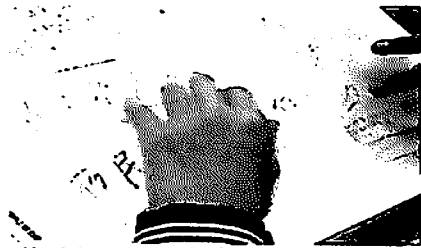
単元名 「世界の諸地域 ～ヨーロッパ～」(地理)

(1) 目標

- ・ EU離脱の動きについて関心を持ち、その理由を考える話し合いに積極的に参加しようとする。
(社会的事象についての関心・意欲・態度)
- ・ EUの課題について、資料にもとづき様々な視点から考察し、自分の言葉で表現できる。
(社会的な思考・判断・表現)

(2) 展開

時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価	資料
4	<p>【見出す】</p> <p>1 前時までの学習内容の確認をする。</p> <p>○EU加盟国の利点とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通通貨（ユーロ）を使っている。 ・ パスポート無しでEU加盟国内を自由に行き来ができる。 ・ 関税がかからない。 <p>○新聞等の記事からEUに離脱の動きがあることを知る。</p>	<p>・ EUが発足した経緯や利点について確認する。(肯定的にとらえるようにする)</p>  <p>英 EU離脱へ 2年かけ脱退交渉 国民投票多数</p> <p>・ 新聞等の資料からEUの離脱の動きがあることを気づかせる発問をする。</p>	<p>EUの利点をまとめた掲示物</p> <p>ユーロ (実物)</p> <p>新聞資料</p>
2	<p>2 学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>EUに離脱の動きが出てきたのはなぜだろうか。</p> </div>		
2	<p>【自分で取り組む】</p> <p>3 EUを離脱する国が出てきた原因について予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民族の違い ・ 宗教の違い ・ 経済格差 ・ 移民問題 ・ 生活習慣の違い 	<p>・ 既習内容を参考にし、根拠のある予想を立てるよう助言する。</p> 	<p>ワークシート</p>
10	<p>4 予想立てた内容について資料などから調べる。</p> <p>[個人で調べる]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西側と東側で経済格差がある ・ 労働者の移住が多い ・ 加盟国が増えすぎたのでは 	<p>・ 資料の他、教科書の本文なども参考にしよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>思考ツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で考えたものを付箋にまとめる。→グループの話し合いで大まかな分類をする </div>	<p>付箋</p>

<p>1 2</p>	<p>【広げ深める】</p> <p>5 個人の考え（調べたこと）をもとにグループで話し合う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・4人班の隊形にする。 ・話し合いの際、自分が調べた根拠を明確にするよう助言する。 <p>○EU離脱の動きについて関心を持ち、その理由を話し合いに積極的に参加しようとしているか。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> 	
<p>1 2</p>	<p>6 グループで話し合ったことを全体で発表し合う。</p> <p>○各班のリーダーが班の考えを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班隊形をもとの座席に戻す。 ・参考になる友達の意見を整理する。 	<p>発表 ボード</p>
<p>5</p>	<p>【まとめあげる】</p> <p>7 各班の発表を聞き、EUのかかえる課題について自分の言葉でまとめる。</p>	<p>○EUのかかえる課題について、資料にもとづき様々な視点から考え、適切に表現しているか。</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>・まとめが苦手な生徒にヒントカードを用意する</p>	<p>ワークシート ヒントカード</p>
<p><学習のまとめ>… (生徒の考えから整理する)</p> <p>EUの離脱の要因として、経済的・政治的理由や移民、社会保障などの問題が考えられる。今後、同じような動きの可能性もある。</p>			
<p>もしEU離脱の原因は移民、経済格差、政治的の違い、自由貿易の自由な活動の制限も出てくる。(自分の国や他の国にも影響する)</p>			
<p>3</p>	<p>8 本時を振り返る</p> <p>○本時の感想やわかったことなどワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価などにより、本時で何がわかったか、振り返りをさせる。 	

6 仮説の検証

(1) 事前・事後のアンケートの結果の変容から

○実践モデルプログラムを用いたことによる社会科学習に対する意欲の変容

社会科の学習は好きですか。	用いる前	用いた後
1. 好き	32%	44%
2. どちらかというが好き	44%	48%
3. どちらかというが好きではない	24%	8%
4. 好きではない	0%	0%

調べたことを自分のノート等（付箋等も）に書くことができますか。	用いる前	用いた後
1. できている	12%	32%
2. だいたいできている	52%	48%
3. 書けないときがある	32%	16%
4. 全く書けない	4%	4%

話し合い活動で良かった点はどんなことですか。（用いた後・自由記述）
<p><良い点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を聞いて、自分の答えだけでなく新たな発見があった。 ・自分の意見を聞いてもらえた。 ・自分の意見を参考にしてもらえた。 ・グループで発表するときに、自分の考えを取り入れてもらえた。 ・色々なことが議論できて楽しい。 ・分からなかったことが教えてもらえた。 ・友達の考えを聞いて、自分が見つけられなかった部分もあるので、次も頑張りたいと思った。 ・得意な人の話を聞いて、さらに考えが整理できた。 など <hr/> <p><新たな手立てが必要な点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話がそれてしまうことがあった。 気をつけたい。 ・調べた内容が本来の内容（学習課題）との違いがあった。 など

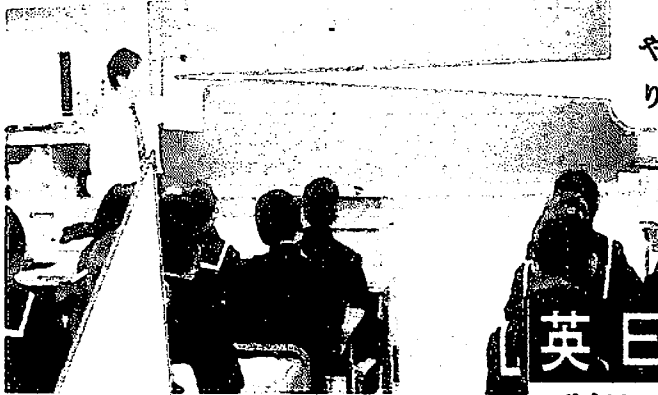
学習した内容を自分の言葉でまとめることができますか。	用いる前	用いた後
1. できる	8%	16%
2. どちらかというができる	40%	56%
3. どちらかというが難しい	36%	24%
4. 難しい	16%	4%

(2) 授業の様子から

【見出す】の場面

「前時の確認」及び「本時の学習問題の投げかけ」

「イギリスのEU離脱の新聞記事」を参考に、学習問題を立てる。



前回学習した EU加盟国の利点は、共通通貨や自由に国境を行き来できるなど、いろいろありましたね。

今日はまず、この新聞記事を見てみましょう。
「イギリスのEU離脱」に関する見出し。加盟国の中での利点が多かったのになぜだろう？

英、EU離脱へ

2年かけ脱退交渉



国民投票 多数確定

イギリスのEU離脱に関する新聞記事の抜粋。記事には「EU加盟国の利点」として、共通通貨、自由な移動、工業製品の製造分担、関税の軽減などが挙げられている。

<前回の振り返り>

EU加盟国の利点

- ・共通通貨(ユーロ)を使っている。
- ・パスポート無しでEU加盟国内を自由に行き来ができる。
- ・工業製品の製造を分担しあえる。
- ・関税がかからない。 など

(3) 抽出生徒の変容 (前の単元との比較)

※アジアの導入→ヨーロッパ

<生徒A>

社会科の学習に関しては嫌いではないが、理解に時間がかかる。作業などの取り組みにも多少時間がかかる。成績は中位(低位に近い)の生徒である。文章を書くのは得意ではない。

学習問題 「アジアの人口・民族・産業にはどのような特色があるのだろうか。」

まとめ

いろいろな特色がある



学習問題 「EU離脱の動きが出てきたのはなぜだろうか。」

まとめ

EUの中で政治やお金によってある問題が起きた。それが不安にならせた。EUの結果が出た。

<生徒 B>

社会科の学習は意欲的に取り組んでいる。成績的には中位（高位に近い）の生徒である。文章も「調べ学習」や「まとめ」など、自分の言葉で書けるが、教科書から拾い上げたものが中心である。

学習問題 「アジアの人口・民族・産業にはどのような特色があるのだろうか。」

まとめ

アジアの人口は約45億人で、世界人口の約6割を占めている。民族は多岐にわたり、言語も多岐にわたっている。産業は主に農業、工業、サービス業などがある。



学習問題 「EU 離脱の動きが出てきたのはなぜだろうか。」

まとめ

EU 離脱の動きが出てきたのは、EU 加盟国間の経済格差や移民問題、安全保障問題などが原因で、加盟国間の結束が弱くなったためである。また、EU 加盟国間の経済格差や移民問題、安全保障問題などが原因で、加盟国間の結束が弱くなったためである。

<仮説 検証の考察>

実践モデルプログラムの学習過程について、概ねどの生徒も意欲的に取り組むことができた。興味・関心を高める学習問題を設定したことにより、積極的な取り組みや自ら考え答えを導き出す生徒が増えた。これは取り組みやすい学習問題（課題）により、本時の内容（小単元も含む）に対する予想や見通しを持ちやすくなったことが背景にあると考えられる。結果として事前・事後のアンケートの結果を比較すると、社会科の学習に関する意欲は高まっていると感じる。

発問に関しては、実践モデルプログラムが習慣化する過程の中で、最終的にキーワードから導いてきた発問など端的なものに変容していった。これは、教師側が色々な言葉を並べて話しすぎると、生徒たち自身の思考を分断・停止してしまう恐れがあるからである。ある程度、学習過程が訓練されてきた中で、ゴールに導くまでの助言程度に留めておく必要性も生徒の様子で感じることができた。ただ、低位の生徒への補助的発問やヒントカードなどの更なる工夫も必要である。「自分の考えを持つ」「広げ深める」という学習の過程で、「思考ツール」を用いる機会が多かったが、課題や問題解決に向けてゴールに導くためには有効であると考えられる。資料の精選を行い、内容に関する新聞記事や映像資料などを見せることにより、「この答えはどうなっているのか」というように疑問を持つ生徒や、資料に基づいて根拠を明確にして自分の考えを広げる生徒が多くなってきた。アンケートの結果でも、自分の考えを書けるようになってきたと考える生徒の割合も高まってきたことが分かった。実際の授業でも調べ学習の取り組みに乏しかった生徒も、意欲的まではいかないが、自分の考えを少しでも書こうとする様子が見られた。話し合い活動の感想も、他の意見に耳を傾け、理解を深めていた生徒が多かったと感じることができた。その一方で新たな手立てが必要な点（学習課題との相違）も出てきているので対策を講じていきたい。

最後の「まとめ上げる」場面で、学習内容を自分の言葉でまとめることができる生徒の割合も、事後の結果の方が高くなっていることが分かった。実践モデルプログラムの習慣化が成果を上げることができる内容であることを実証することができた。

7 成果と課題

(1) 成果

- 実践モデルプログラムを習慣化することで、生徒自身が学習課題に対して、学習過程が見通せている分、意欲的に学習に取り組む生徒が増えた。
- 調べ学習の中で、資料集や補助教材の中から写真やグラフなどを活用し、根拠をしっかりと示して自分の考えを記入する生徒が増えた。
- 話し合い活動の中で、自分に不足している内容など自らの考えを再構築して、理解しようとする生徒が出てきた。
- 一斉授業の時より、生徒の表情は柔らかく感じられ、普段言葉数少ない生徒も話し合いで自分の意見を述べていた。
- 学習問題の工夫により学習のまとめで、その学習で理解できた内容を自分の言葉で整理できる生徒が増えた。
- 「まとめあげる」場面で、次時につながる「新たな疑問」を持つことができる生徒が出てきた。

(2) 課題

- 実践モデルプログラムは毎時間取り組めるものではなく、単元内でいくつかポイントを設けて実践する方が効果的な部分もある。(単元内でも説明が主となる内容もあるため。)
- グループ学習(学び合い)を行う際、時間配分などの工夫を内容の特性を意識して構築する必要がある。
- 自分で調べた内容など思考ツールを用いて整理する際、端的に分かるキーワードや要約したものなどで並べられるようになると、意見交換で話題を広げることができると感じた。

第69次印旛地区教育研究集会
(社会科教育・中学校)

確かな学力と思考力・表現力を高める社会科学習のあり方
～「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの活用を通して～

資料編

印西市立船徳中学校
吉田 知宏

・県標準学力テストの結果より（平成30年度）

中学1年生	関心意欲	思考判断	資料活用	知識理解
本校正答率	85.0	55.1	69.5	75.6
県平均正答率	80.8	49.4	58.7	61.5

<意識調査> 平成30年度 中学1年生

1 社会科の学習は好きですか？（再掲）

社会科の学習は好きですか。	用いる前	用いた後
1. 好き	32%	44%
2. どちらかというが好き	44%	48%
3. どちらかというが好きではない	24%	8%
4. 好きではない	0%	0%

2 社会科のどの分野の学習が好きですか？

地理	28%	歴史	72%
----	-----	----	-----

3 社会科の学習はわかりますか。

よくわかる	40%	どちらかというわかる	48%
どちらかというわからない	12%	全然わからない	0%

4 社会科の学習で、好きな学習活動は何ですか。（複数回答）

グループでの話し合い （友達との意見交換を含む）	60%	教科書・資料集などで調べる	48%
映像などを見る	48%	先生の話聞く	44%
板書をノートに書く	28%	自分の考えをまとめる	28%

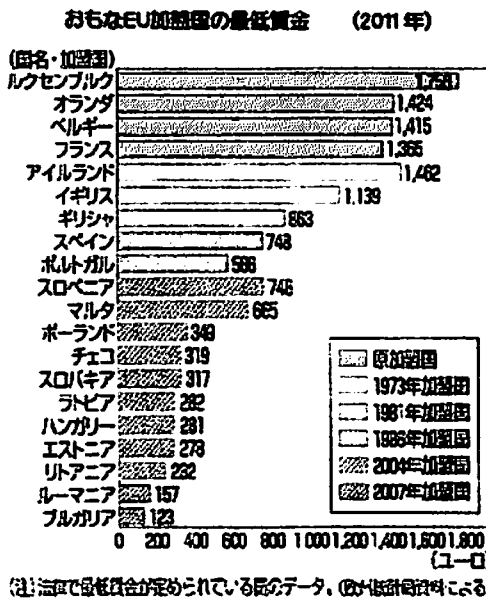
5 学習活動を進めていく中で、どんなときにやる気が起こりますか。（複数回答）

わかったとき	64%	発表し合うとき	60%
グループで活動するとき	56%	自分で課題を調べる時	44%
ほめられたとき	40%	テストのとき	32%

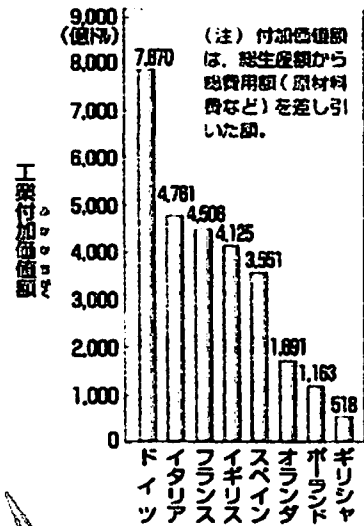
○資料の精選（プラスαの考え方や興味関心を高めるために）

1年生 地理 「世界の諸地域」～ヨーロッパ～

参考資料

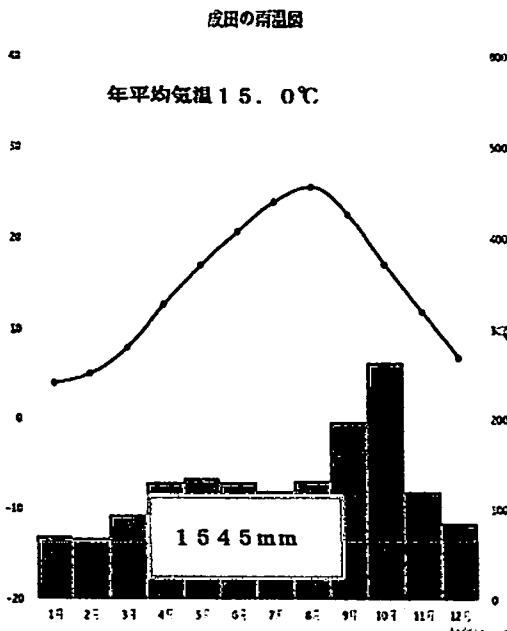


おもなEU諸国の工業生産 (2011年)



「世界の諸地域」ヨーロッパのEUについての学習において、教科書の本文に触れられている「経済格差」についての考え方を深化させるために資料として提示する。

2年生 地理 「世界から見た日本の気候」



「世界から見た日本の気候」の日本の気候の特色をつかむときに、身近な地域のデータを活用することで、興味関心を深める。

○展開例

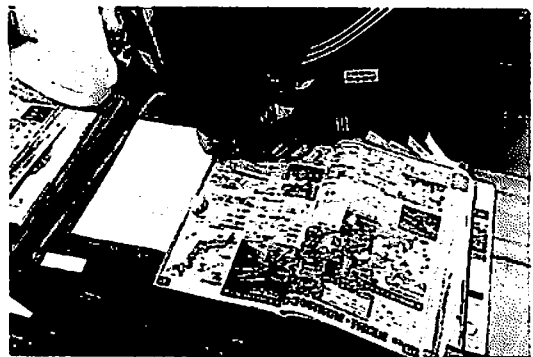
世界から見た日本の姿 ～世界から見た日本の人口～

「日本の人口と過疎・過密」

時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価	資料
4	<p>【見出す】</p> <p>1 前時までの学習内容の確認をする。</p> <p>○日本の過密地域・過疎地域はどの辺りに分布していますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した「日本の人口の特色」、「少子高齢社会」について確認する。 ・過密地域・過疎地域の概要を知るために、該当する地域の人口ピラミッドや人口密度などの統計資料を提示する。 	前時の要点をまとめた掲示物
2	2 学習問題をつかむ。		
日本の過密地域・過疎地域はどのような課題を抱えているのだろうか。			
2	<p>【自分で取り組む】</p> <p>3 学習課題に対しての予想をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を参考にし、根拠のある予想を立てるよう助言する。 ・資料から東京都と秋田県の人口の変化のグラフを提示し、過密と過疎の動きが顕著であることを気づかせ、発問をする。 	人口のグラフ
10	<p>4 予想立てた内容について資料などから調べる。</p> <p>〔個人で調べる〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の他、教科書の本文なども参考にしよう助言する。 	付箋
12	<p>【広げ深める】</p> <p>5 個人の考え（調べたこと）をもとにグループで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人班の隊形にする。 ・話し合いの際、自分が調べた根拠を明確にするよう助言する。 <p>○過密・過疎の諸問題について関心を持ち、その理由を話し合いに積極的に参加しようとしているか。</p> <p style="text-align: right;">（関心・意欲・態度）</p>	発表ボード

<p>1 2</p>	<p>6 グループで話し合ったことを全体で発表し合う。</p> <p>○各班のリーダーが班の考えを発表する。</p> <p>【まとめあげる】</p>	<p>・班隊形をもとの座席に戻す。</p> <p>・参考になる友達の意見を整理する。</p> <p>○過密地域・過疎地域のかかえる課題について、資料にもとづき様々な視点から考え、適切に表現しているか。 (思考・判断・表現)</p>	<p>発表 ボード ワークシート</p>
<p><学習のまとめ>… (生徒の考えから整理する)</p>			
<p>3</p>	<p>8 本時を振り返る</p> <p>○本時の感想やわかったことなどワークシートにまとめる。</p>	<p>・自己評価などにより、本時で何がわかったか、振り返りをさせる。</p>	

○授業の様子



○学習問題に対する生徒の「まとめ」

日本の過密地域・過疎地域はどのような課題を抱えているのだろうか。

<生徒 A>・・・それぞれの地域の課題があることは分かっているが、深くまでは触れられていない。何かしらの対策を講じる必要性は感じている様子。

過密地域と過疎地域の様々な問題があることがわかった。
対策を行わなければならない。

<生徒 B>・・・他の生徒との意見交換で得た知識をもとに、過疎地域で高齢者の割合が高い様子について、今後どうなるのか自分の考えを書いている。

過密地域と過疎地域の人口ピラミッドを比べたときに、子どもや若者の割合とお年寄りの割合の違いが大きく、東秩父村の今後が心配になった。

<生徒 C>・・・過密問題に焦点を絞り、そこで起こっている現象について整理している。

過密問題もいろいろな問題があるが、その中でもドーナツ化現象が起こったり、都心回帰現象が起こるなど人口が移動することを知った。多摩ニュータウンも高齢化が進んでいることを知った。

<生徒 D>・・・自分が調べたことを中心に、具体的な学習内容をふまえたまとめになっている。

過密問題も人が集まりすぎると、交通渋滞や住宅不足、公共施設や整備が追いつかないことがわかった。過疎地域は、高齢化が進み、経済活動がおとろえたり、バスや鉄道などがなくなる深刻な問題もある。あと限界集落という言葉もはじめて知った。こうなると店は閉め、学校が無くなるのがよくわかる。

～参考資料～

千葉県教育委員会 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」

千葉大学教育学部附属教員養成開発センター 新・教育最新事情 第2版

小学館 田村学・黒上晴夫共著『こうすれば考える力がつく！中学校思考ツール』(2014)

国立教育政策研究所「アクティブ・ラーニングの視点に立った学習空間に関する調査研究」報告書